

津市子どもの権利条例づくり推進市民委員会 合同委員会 議事録

日時：平成25年11月23日（土）13：30～15：30

場所：まん中子ども館ミーティングルーム

参加者

子ども委員会：赤塚（津商）、中野（津東）、吉田（津高）、吉田、小久保（南が丘）、米倉（橋南）、
市民委員会：浅生、丹羽、今田、大野、竹村、永合、堀本、市川、山口

進行：竹村

※まず子どもと大人は初対面の人が多いので自己紹介をした。

・竹村さんから今日の進め方の説明をした。

今、大人の市民委員会では4つのグループに分かれて骨子づくりをしている。今日はグループを代表してメンバーが出ている。

前回の子ども委員会では、学校での体罰をどうしていったらいいのかを話した。そこで出てきたことで当事者以外の第三者が要るのではないかという話になった。仮にそれをオンブズパーソンとすると、どういうところなら相談できるのか、訴えやすいか、どんな人なら秘密を守ってくれるのかを話した。

今日は具体的に3つのこと「窓口」「手段」「解決」について、どれを選んでもいいので話し合いをしてほしい。どう解決していったらいいか、大人と子どもの解決は違うと思う。その違いも話してもらえると、オンブズパーソンの仕組みになっていくのではと思う。示談にしまうような分からないところで終わってしまわない仕組みを作りたい。それを具体的に（ひとつの章になるくらいの）条文にしていきたい。今日は2つのグループに分かれてKJ法で話し合う。ファシリテーターは子ども委員会ファシリテーターが進める。

○赤塚、中野、吉田 浅生、今田、大野、山口

ファシリテーター：竹村

○吉田、小久保、米倉、丹羽、市川

ファシリテーター：永合、堀本

※竹村グループ・・・どう解決できるのか、あるいは、出来ないと思うのでもいいので書く。

1回目は、1人1枚ずつ出す。

- ・もみ消さない。
- ・みんなで考える話し合える場所を作る。
- ・子どもの意見を抜きに解決はよくない。
- ・思い切りけんか（殴り合い）全部はき出す。
- ・いじめ、相手が反省したら変わるかも。
- ・悪い方を決めて悪い方をしかるだけ
- ・中途半端、解決していると思うからだめだと思う。仲良しで大人は終わらせたい、でも続いていく。
- ・マスコミに知らせる。

2回目

- ・経験をした子どもの話をする。
- ・経験した人に聞いてもその方向にいくわけじゃないから、関係ない。同じようでも同じじゃ

ない。

- ・被害者の名前を出さずに加害者に警告（心あたりありませんか？）
- ・先生だけに相談した内容を先生が勝手に回りに広める、いつの間にか知られている。
- ・それは友達同士でもある。
- ・先生はみんなに言う、だから言わない。クラス会で広まる。
- ・元どおりになることが解決。
- ・仲よかったのに急にいじめになる（すれちがいで）
- ・わだかまりはない→ある、ぎくしゃくする。すれちがいなら、ない。
- ・弁護士に相談
- ・知らないところで話をつける。
- ・なんとか相談室があって、先生が相談を聞くだけ聞いて相手に話す、そんなの解決にならない。先生に言ったやろ！になる。
- ・その子が思う方向が解決・どうしたいの？を聞かれない。
- ・生徒会に相談、生徒会が作った解決する委員会（生徒会そのものじゃなくても）。委員会は面倒くさい、やりがいがあったらどうだろう？
- ・信頼できないと相談出来ない、相談しても段階があるのに先生が飛び越す、心の準備がいる。
- ・謝るだけで終わるのはいや！心から言葉、行動で示す。
- ・話をきいてほったらかしはダメ
- ・先生のアドバイスで子どもが出来ない事はダメ
- ・友達を集めて先生を呼び出す。
- ・少しずつ出来るアドバイスが欲しい。
- ・間に立って、言いたいことを誰かにフォローしてもらおう（調整、仲介）←そういう人いる？
中間に立ってくれる人、先生じゃない人→いません。
スクールカウンセラー、養護の先生、しゃべらない、顔も知らない、雲の上の人！

※永合・堀本グループ

1 回目は、解決方法が分からないと悩みを聞いてもなんともならないので「解決」で話し合うことになった。まず各自が出した。

- ・子どもの本音を言える環境
- ・子どもの望む・納得する解決
- ・話し出せるような安心感、話さないと進まない。
- ・子どもの意見をうのみにしない。
- ・みんなで考える。子どもも考える。
- ・大人と交渉していける場。
- ・情報を公に一部の人だけで解決しないよう
- ・お互いの言い分を平等に聞く。
- ・話した人の責任を問わない。
- ・両方納得。
- ・みんなで話し合う。
- ・心の傷ついた人が笑顔になればいい。
- ・いろんな人に相談
- ・大人も子どももお互いに意見を言う。
- ・大人と子どもを公平にみてほしい。
- ・意見を出せる場。
- ・誰もの意見を聞く
- ・原因は何かを明確にする。
- ・オープンとクローズを区別する。
- ・同じ悩みを共有する。
- ・第3者的な立場の人が必要。
- ・専門家から聞く。

1 回目に出した後、話し合いをした。

- ・子どもの意見をうのみにしないと書いたのは、疑われたことがあるから。
- ・オンブズパーソン、第3者がどこまで子どもの意見をきけるか、解決策を見出すかが大事。
- ・親が勝手に頭ごなしに決めている → 親最強。
- ・子どもの望む解決は具体的には？ 根本から解決になるように。
- ・解決の後も見っていく。
- ・納得しても頭に残る → これは解決ではないのでは。
- ・オープンとクローズ、どこまでかはその人それぞれ。
- ・知られたくない部分・公開していい人としたくない人。
- ・子どもの本音を聞けるように・・・でも全部は話せない。
- ・直接会ったり、電話で話したい。
- ・メールやラインはいつ返事がくるか不安、早く返さないと信用を失う。
- ・電話や直接会って話したいが、敷居が高くなるから、中身によるがメールが言いやすい。
- ・ライン・・・悩み事相談アカウントは気軽な手段としては使えるかな、手段としては選べる方がいい。

※それぞれのグループで発表して質問をする。

◎永合、堀本グループは吉田さんが発表をした。

- ・最終的に笑顔になるのを目標にした。
- ・子どもが納得する、両方が納得する、どうしたら解決に向かえるのか？色々な視点から解決につながるみんなの意見を聞く。みんな（第3者だったり、専門家だったり）
- ・思いを出す、お互いに意見を言って考える。安心して話しを出せる雰囲気をつくり、子どもの本音を聞く。
- ・みんなで共有する→子どもの望む解決になるのではと思う。
- ・他にも、話し合い自体はいじめた本人の責任を問うとかではなくて、良い方向に向かうために話し合う。
- ・情報を公開するところと、クローズするところの境界をはっきりさせる。原因をみる解決に向かうと思う。

○質問 ・解決とはなに？今後起こらないようにすることか？解決したとして受けた側は嫌な思いは残る。それでも解決と言える？

答え ・納得した後も見ていったり、話をしたりするという事の、話し合いの途中です。

○質問 ・大人の側で解決したと思っても継続的に見ていかないといけないのかなと思う。子どもの望む解決が前提なのかな？第3者はどういう働きをする？

答え ・子どもの望む解決です。第3者はまだ具体的には話していない。

○質問 ・第3者はどんなイメージ？専門家？

答え ・当事者以外の人に関わってもらうことが大事ということ。オープン、クローズは個人によって違うのでは、という話になった。先生の意図と子どもの望むことがずれている。(竹村、こっちのグループでも同じような話があった)

◎竹村グループは中野さんが発表した。

- ・解決と解決じゃないのとの話をした。話をするだけ、謝るだけ、無理なアドバイスをされても解決にならない。解決方法は、思いっきりけんかをする、言いたいことを言ってぶつかり合う。けんかしたことで分かり合えて心から謝れたら、解決する、その反対もある。第三者が入って解決する場合としない場合がある。図で書いた。その他、経験者の話を聞く、電話でアドバイスをもらう。話し合う場所を作るとか。
- ・その子が思う方向、その子がどうしたいか、解決を無理に終わらせないことも大事だと思う。大人の都合で聞くだけで、なかった事にする。もみ消さない。

○質問 ・(マスコミに知らせる) はインパクトが強すぎる。そこまでしないと解決できないのかな？

答え ・子どもがよほど傷つけられた場合、もっとみんなの問題にするために、マスコミに訴えることもありかな、と思う。マスコミの取り上げ方はいつも正しいとは限らないが、知らせることは大事かな。

○質問 答え

- ・(被害者の名前は出さず・・・) は、やりすぎるとこっちがいじめになることもある。怖さでうわべだけで、ごめんなさいという場合もあるのでは？
- ・思いっきり喧嘩するのは難しいのかな？難しい、遠慮してしまう。それ以前に大人が止める。陰湿にならないでオープンにすることは結構大事。これは良い方に転ぶとは限らない。両方ある
- ・それでも出した。

※まとめ

- ・話し合ってみてどう？
 - ・先生を巻き込むと、中途半端になると情報がすぐ洩れる。職員室で話題になる。
 - ・言い訳をすると、子どもの望む解決を改めて思うと「ごめんって早く言いな」とかそんなふうにしてきた。どう子どもが考えるかを大事にして、原因をどう捉えるかを考えていかないと。そういう方向で考える先生もいる。先生側が受けとめないといけない。
 - ・相談を受けて解決に向かっていく中で、どこまでいけばいいのか、それがあやふや、何回か話し合ってここまでしていけばいいかな？と意見を持ちたいと思った。
 - ・両グループも、どちらも「解決」の話をしたが、解決は難しいと思った。
- 今回、合同委員会は初めてでここまで話が出来たことは、良かったと思う。子ども委員会は、去年から数えて20回目くらいで、今日は対等な関係で話が出来た。大人の委員会でもっと具体的に話をしていく。どんな仕組みを作ったらいいのか、子どもオンブズパーソン制度の根幹になる(解決)とは何？の話をした。これを生かしていきたい。

※次回の子ども委員会 12月22日(日) 13:30~15:30 まんちこども館